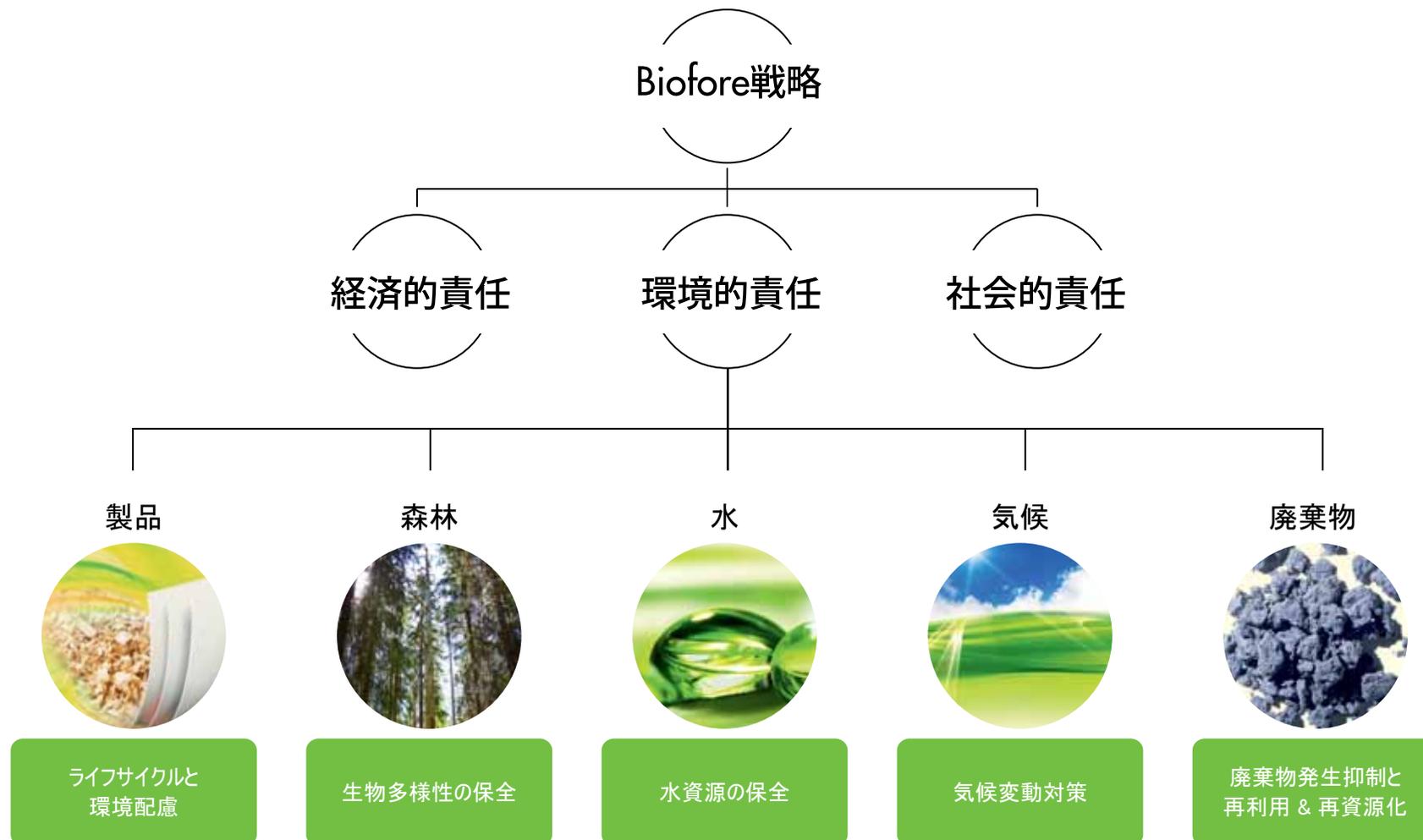




Rooted in Responsibility

CSRと事業運営

UPMは、バイオ産業と森林産業を融合し、Bioforeという当社独自のコンセプトの基、革新的で持続性のある未来を目指しています。Bioforeは、再生・再利用可能な木質バイオマスの活用、技術革新の駆使、資源の有効活用、企業責任といったそれぞれの分野で実践・実現します。UPMは、革新的で責任あるビジネスモデルと共に、生活の質の向上と地域社会の繁栄に貢献していきます。



製品のライフサイクルマネジメント

UPMの製品ライフサイクルマネジメントとは、製品の製造時だけでなく、配送、再生、廃棄時を通して環境への負荷を考慮しているかをライフサイクル全体でとらえる管理方法です。素材選定の段階で環境負荷の低い材料を選択し、リサイクルやエネルギー消費を極小化できるように、製品設計に環境負荷低減コンセプトが幅広く取り入れられています。



製品の安全性 – 最優先事項

UPMの製品は再生・再利用可能で、自然界への負荷を考慮した上で、安全性を第一に考えられています。UPMにおける製品の安全性は、原材料の調達を含む全ての製造過程にて確保されています。

環境ラベルと認証制度

新聞用紙、印刷・出版用紙、情報用紙を含むUPMの製品にはEUエコラベルが認定されています。2015年には、UPMの77%の紙製品、合板、化学パルプ、木材製品がエコラベルに認定されています。この77%にはFSC、PEFC、EUエコラベル認証が含まれます。UPMは2030年までに全ての製品が認証されることを目指しています。

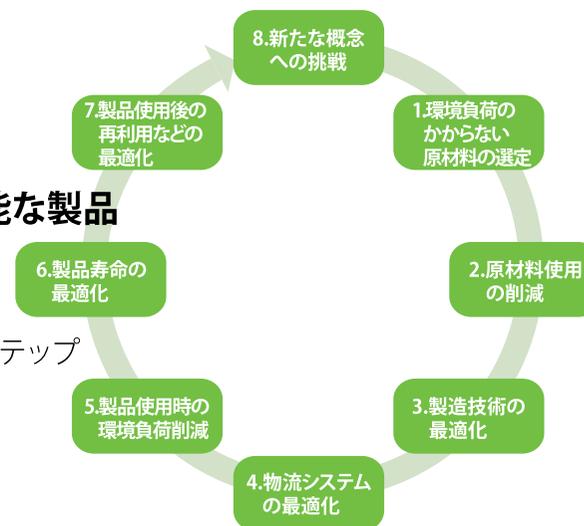


エコデザイン

エコデザインとは、製品の環境負荷低減・安全性という観点から、製品の原材料調達から製造、使用過程、廃棄に至るまでのライフサイクルにおいて環境に対して生じる全ての負荷を考慮・評価し、環境保全に資する商品であることを認定し表示する制度のことです。

UPMの持続可能な製品

エコデザインの8ステップ



持続可能な森林管理

森林はUPMにとって最も重要な資源です。その重要な資源である持続可能な森林管理の原則を遵守することは我々にとって最重要課題といえます。UPMは、持続可能な森林管理、生物多様性の保全、カーボンサイクルによる地球温暖化防止、資源の有効活用などの環境保全に取り組んでいます。

UPMの森林管理は厳格な木材資源の管理規則に則って行われており、合法的に木材調達をしています。木材生産地は常に管理され、保護林または生物多様性の促進地域から違法伐採されたものではないことを確認しています。

- 総合評価と森林保護
- 森林分野の専門知識
- 研究開発
- 森林認証: すべてのUPMの森林はFSCもしくはPEFCによって認証されています。

生物多様性の保全と強化

ここ20年間にわたってUPMは商業林における生物多様性の保全について研究開発を進めてきました。UPMの生物多様性プログラムの目的は、持続可能な森林管理と木材調達を最良の方法を用いていかに生物多様性を維持し、向上させるかということです。

UPMの生物多様性プログラムはこちらから:
<http://www.upm.com/Responsibility/forests/Biodiversity/>

生態系システムを保護する森

森は食料の宝庫です。ベリー類、キノコ類、菌類などがあふれています。北欧の国々では、誰でも自由に森の中に入って採取できる権利があります。

森は人々にレクリエーションを与え、精神面での健康を促進します。

UPM Forest Lifeはこちらから:
<http://www.upmforestlife.com/>

カーボンサイクル
炭素循環

持続可能な森林管理

水の循環

環境負荷の軽減

UPMは最小限の資源を最大に有効活用すべく、繊維1本を無駄にしない高効率な製造方法を確立しています。革新的で汎用性の高い技術を常に模索しており、各製造工程の効率を極大化させ、あらゆる場面において環境負荷の軽減に努めています。当社のエコデザインアプローチは、製品ライフサイクルの各ステージで、環境負荷の軽減コンセプトを極限まで取り入れています。



水資源の管理

UPMでは、製造過程で発生する排水をわずかな量でも浄化し、再利用しています。全ての排水は自然界へ放流する前に浄化処理が行われています。



EMASに関する詳細:

<http://ec.europa.eu/environment/emas/>

廃棄物の削減

UPMは、廃棄物の発生抑制とともに、廃棄物の有効活用にも力を入れています。少量の残留物からでも再利用できる新しい製品の実現化に取り組んできました。固形廃棄物の発生量を削減し、資源の有効利用率をあげることがUPMの工場における最大のテーマです。

樹皮や樹木から得られる森林生物資源を含むすべての有機生産物だけでなく、脱墨や排水処理から抽出される微細な繊維も工場のエネルギー燃料に利用されています。今日、UPMの生産過程で使用される90%以上の産業廃棄物は再生・再利用されています。

大気と気候変動

UPMの大気中への排出ガスのほとんどは発電によるものです。燃料の選択、燃焼技術、排ガスの浄化は、大気汚染の抑制につながります。

地球温暖化対策は、UPMのCSRにおいて最も重要な課題であり、気候変動の抑制において長期的に取り組んでいます。

UPMのBiofore戦略では、化石燃料から再生可能燃料への変換、森林管理の強化、二酸化炭素の吸収、資源の有効利用を掲げ、あらゆる分野での環境負荷低減を図っています。

技術革新



森林産業の新しい技術革新の象徴であるBioforeを代表するコンセプトカーは、2年間のテスト走行を経て、数多くの展示会で公開されました。車体を構成する独自の再生可能なバイオ素材は、自動車業界で初めて、新素材の革新性を証明した形となりました。



UPM BioVernoは当社独自の技術革新のもと開発されました。この高度なバイオ燃料の主な原材料はトール油（天然樹脂）です。トール油は化学パルプ製造時の残留物で精製されます。UPM BioVernoは、化石燃料を代替する再生可能なディーゼル燃料です。従来の化石燃料に比べて二酸化炭素排出量が最大80%削減されるなど、環境改善に大きな成果をもたらします。フィンランドのガソリンスタンドSi1やABCでのバイオ燃料の普及を目指します。



RafCycle®は、ラベルの廃棄物を再利用して素材を創り出す革新的なリサイクル概念です。RafCycle®の目指すところは、粘着加工製造、ラベル印刷、打ち抜き加工、ラベリングの各工程で発生するラベル原反廃棄物を廃棄処分するのではなく、環境に優しい代替手段を粘着ラベル業界に対して提供することです。



UPMバイオ複合材には屋外用途で使われるUPM ProFiと、射出成形と押出成形に適したUPM Formiがあります。この2つの複合材は天然素材とプラスチックの優れた特質を組み合わせたもので、100%再利用可能です。その主成分はセルロースファイバーや高性能ポリマーなどのバイオマス素材で成り立っています。



GrowDex®は、超微細構造なセルロース・ナノファイブリル技術を活用したハイドロゲルです。その機械的特性はさまざまな分野に適用することができます。UPMは医薬品開発用途として3次元培養したGrowDex®を商品化しました。GrowDex®はヒト組織の再生分野に用いられ、生態適合性を有しています。

持続可能性への挑戦



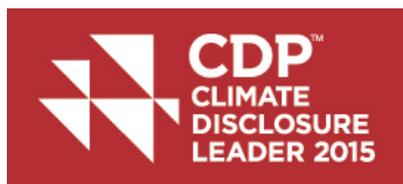
Global Compact LEADは、世界的に確立された人権の保護・不当な労働の排除・環境への対応・腐敗防止にかかわるCSRの基本原則10項目を指示し、各企業がその実現に向けて自発的に取り組むものです。現在およそ50社の企業が持続可能な成長を実践しています。UPMは森林産業企業として初めて、またフィンランド企業として初めて、国連グローバルコンパクトLEADに加盟しました。



Dow Jones Sustainability Index (DJSI)は、世界の代表的な社会的責任投資の指標であり、経済・環境・社会の3つの側面から持続可能なリーダーを各産業分野から評価するものです。UPMは、2015年9月にインダストリーリーダーとして認定され、すでに4年連続で評価されています。



RobecoSAMは、持続可能性に関する取り組みが優れている企業を毎年選定し、すでに1,000社以上の企業が評価されています。毎年1月に「サステナビリティ・イヤーブック」が発行され、UPMは2016年にゴールドクラスに認定されました。UPMは、森林・製紙産業の中でゴールドに認定されている唯一の企業です。



CDPIは、英国のNPOであり、企業が環境や天然資源に及ぼす影響を開示するよう、またその影響を軽減する対策をとるよう機関投資家とともに働きかけ、地球温暖化防止への取り組みに積極的な企業をCDLI(Climate Disclosure Leadership Index)として選定しています。UPMは2015年に最高ランクのCDLIに認定され、今回で7年連続の評価を受けております。



www.upm-japan.com
www.upm.com

UPMキユンメネ・ジャパン株式会社

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-14-2

山王グランドビル4F

TEL: 03-6205-8130 FAX: 03-6205-8132

仙台営業所

〒980-0811

宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1

仙台第一生命タワービル2F

TEL: 022-726-6730 FAX: 022-726-6731